

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 225 号	2020年4月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—4月5日（日）令和2年度の総会をビオトープ東屋にて開催し、20名が参加し、R1年度活動報告・R1年度会計報告・監査報告・R2年度活動計画・傷害保険の説明などが行われました。

総会終了後、水路周辺の草刈り（上流部）、除去草の撤去と焼却作業を行いました。

—4月18日（土）本日は里山自然観察隊の予定でしたがコロナウイルス対策にて中止でした。しかし自主的に集まれた会員によりお互いの距離を開け、8名により（原田、吉富、小林、藤井、原谷、前田、関根、若林）、1)水路井堰までの残りの網の除去と草刈、2)水車の泥運びと整地、3)竹林の整備、4) その他の作業が進めました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

—5月3日（日）維持活動（草刈り、溝上げ、エコアップ、修復作業）

—5月16日（土）親子自然観察隊（結隊式、野鳥観察）

—5月30日（土）維持活動（田植え準備、溝上げ・草刈り）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「新型コロナウイルスとビオトープ観察会」（菅 哲郎 記）

2020年春、まさかこんな事件が続くとは思っていませんでした。中国が発生源として注目を集めましたが、2か月たたないうちに瞬く間に全世界がウイルスに侵されてしまいました。山口県は大都市とは違い人口密度も低く、ほんの春先まではインフルエンザであり、温かくなれば収束するであろうと安易に考えていましたが、私たちの想像以上に猛威を振るい、いつの間にか、大変な事態に陥っていることが切実に感じられ、身近に思われます。

観察会の中止

せっかく楽しみに入隊された隊員の皆様には、素晴らしい自然との触れ合いができなくなった事態を、心より残念に思っています。隊長としては事情が回復し次第、再開したいと考えていますが、現在では何とも皆様にお約束できません。やはり、早く新型インフルエンザの対処法を確立いただき、安全が確保できずと、再開は難しいと思います。

新型コロナウイルスの経過がはっきりとみられるまでは私たちも動きが取れません、フィールドを利用したくとも、現在は管理作業もままならず、少し荒れてきています。このような管理作業を経てビオトープの行事が行われます、再開にはいろんな条件が整わねばなりませんので、しばらくの間はイベントを中止いたしますので、ご容赦いただきます。

フィールドでのご注意

ご家族で単独でのフィールド散策は差し支えありませんので、遊びにいらっしゃって下さい。入場の制限はしておりません。しかし、そろそろへびが出てきました、草むらに入る時には長靴を着用されたほうが自由に歩けます。スズメバチは巣作りしてなければ、脅かさなければ、そんなにむやみに襲ってくることはありません、見かけたらそっとハチから離れてください、2~3m 離れれば安全です。ダニも草むらの中に潜んでいます、まだ1~2mmほどで小さいので、衣服についても見つけにくいので、虫よけスプレーを振りかけておく安全です。

フィールド内での事故については、申し訳ありませんが自己責任とされてください、ピオトープ側では責任を負いかねます。

このようなことを皆様にお伝えしなければならぬことは、隊長としましてはつらいことですが、私たちが初めての経験です、ご協力をお願いいたします。皆様のご安全をお祈りいたします。お互いに元気な姿でお目にかかりましょう。

5. ピオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(50) ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia ferruginea* (カメムシ目オオヨコバイ科)

セミに近縁なカメムシ目の昆虫です。幼虫、成虫共に植物の汁を吸って生きています。仲間のツマグロヨコバイは稲の茎を吸い成長を阻害しますので害虫とされているようです。

ツマグロオオヨコバイは人が近づくと茎の周りを横に回るようにして隠れますので、眼を放すと飛んで逃げたのかと思います。黄緑色をして黒い斑紋があり15mmほどでよく目立ちます。ついつい被写体にしてしまいましたが、「バナナムシ」という別名があり、子供たちに人気があるようです。本州~沖縄まで10種類ほど見られるようですが、筆者はまだ2~3種類しか確認できていません。小さいので見つけにくいようです。



ツマグロオオヨコバイ 体液排出 二俣瀬ピオトープ



ツマグロオオヨコバイ



ヨコバイの仲間 山口市

参考文献

海野和男、2013. フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑. 254pp. 誠文堂新光社. 東京.

6. 会よりの連絡事項

1) 現在の状況が続くようであれば、5月の作業も基本中止となりますが、地元会員と有志による水路の確認と草刈りは必用かなと思います。ソーシャルディスタンス（2m以上離れる）などで対応するかです。

2) 寄贈のお知らせ

水車金属部工事・湿地帯掘起し等をしていただいた厚東商会と当地区城生原の長岡さんに真砂土1トンを運搬して頂きました。以前も長岡さんには厩肥も運搬頂いております。また吉富会員には太陽産業さんに掛け合って水車坂道用のぐり石を3車頂き藤井会員とともに持ち込んでいただき大変助かっております。地域挙げて応援を頂いており維持管理に助かっております。

7. 編集後記 （ 原谷 一誠 記 ）

4月18日は、コロナウイルスへの対応として、親子自然観察隊は中止とし、代わりに維持活動をと協議しましたが、最終的にすべて中止となりました。この影響はいつまで続くのでしょうか。田植えは、稲刈りは、創設20周年記念のイベントは、それにもまして維持活動も出来ないようであれば、ビオトープの植物の生息状況にも影響しかねません。一日も早い終息を願って、ただ待つだけの状態なののでしょうか。イライラする気持ちを、汗をかくような作業でスカッとしたいと思ってもいますが、答えを見つけることもできません。何か良い知恵はないのでしょうか。